



R元. 5. 4撮影

【巻頭言】 聴くことでやる気を引き出す学校経営

福島県小学校長会安達支会長 紺野 宗作
(二本松市立二本松北小学校長)

学校経営を充実させるために、「どのようにして教職員のやる気を引き出していくか?」・・・このことは、常に私の大きな課題となっている。学校経営ビジョンを示し、目指す学校像・教師像や自分の教育信条をどんなに熱く語っても、そのことが教職員のやる気につながり、すべての教育活動に反映されていかなければ意味はない。

これまでの私の校長経験を振り返ると、ビジョンを達成するために、教職員のやる気を引き出そうと、必死になって説明したり説得したりしてきたことが多かった。教職員の個性や実態に合わせ、どんな内容でどんな言葉で語れば、個々の教職員の心に響き、やる気を引き出せるか、自分なりに腐心してきたつもりだ。私は、主に教職員に「話すこと」で理解を図り、教育活動を充実させようしてきたのである。しかし、この方法で、教職員のやる気が高まったという実感はあまりない。なぜなら、相手は表面上従ったとしても、心から納得しているわけではないからだ。そのために、すぐまた、説得することを繰り返すことになってしまう。

「人を動かす」の著者で知られるデール・カーネギーは、「人を熱烈に動かそうと思ったら、相手の話を熱心に聴かなければならない。人は、話を聴くことにより、人生の80%成功する。」と述べている。「聴くこと」をないがしろにしてきた自分ではあるが、「聴くこと」の効用を実感することがある。教職員から相談を受けたりした際、「あなたの意見はどうですか。私の意見はこうですが・・・」と、校長として判断し指示する前に、相手の意見に耳を傾けられた時である。そんな時は不思議にも自分の考え方に同意してもらえ、しかも教職員のやる気が高まることがよくある。「話すこと」ではなく「聴くこと」で教職員の行動が確実に変わるのである。

聴くという行為は、他人への敬意の表れであり、敬意は人を動かす原動力となる。だから、人は誰でも自分の言うことを聴いてくれる人には、前向きに応えようとする。しかし、自分としては前向きに一生懸命取り組むことができていると実感していることでも、他人から認めてもらう行為がなければやる気は持続できない。人間は元来、「こんなに頑張っているのだから、ほめてほしい。認めてほしい。」という強い承認欲求があり、しかも、自分を過大評価する心理的傾向があるという。仮に校長が能力や業績を正当に評価したとしても、「校長は自分をちゃんと評価してくれない。」と感じやすい。だから、校長は、教職員のやっていることに常に関心を払い、個々の教職員の話を意識して「聴くこと」を大切にしなければならない。そうすることで、タイムリーに個々の教職員を認め励ますことが可能となり、教職員の頑張りを正しく評価し称賛することができる。人間のやる気とは、承認欲求が満たされたときほど高まるものはないという。

新学習指導要領が本格的にスタートしようとしている現在、学校の教育活動の質を高めるために、校長の自立性や組織マネジメント力などの重要性が叫ばれている。私は、今、学校経営の中で、常に教職員の話に耳を傾け、きめ細かな「人」への関わりというものを大切にしたいと思っている。そして、校長と教職員が指示することと指示される関係に慣れきってしまった現状を振り返り、「どう教職員とかかわっていったらやる気を引き出せるのか」、これからも試行錯誤を続け学校経営を充実していきたいと考えている。

【総務部活動計画】

「安達は一つ」を実効あるものに

総務部長 高橋 健一
(二本松市立油井小学校長)

【経理部活動計画】

適正・円滑な経理を期して

経理部長 草野 和代
(本宮市立岩根小学校)

1 活動方針と活動内容

- (1) 全国・東北・県小学校長会との緊密な連携と調整のもと、諸会議の充実を図る。
- 第71回全国小学校長会研究協議会秋田大会・第59回東北連合小学校長会研究協議会秋田大会【5名参加】(10月17日～18日)
 - (2) 大会・各専門部の組織を十分機能させ、計画的かつ継続的な活動を展開し、特色ある学校経営の創造に資する。
 - 年間計画に基づく研修や情報交換
 - ・全体研修会、方部別研修会
 - ・各専門部の活動と情報交換
 - 創意工夫ある運営
 - ・活動内容・方法の工夫
 - (3) 各種教育団体との連携を密にし、安達地区内の教育課題の解決に資する。
 - 県小教研研究協議会の開催
 - ・国語部会安達地区会の支援
(10月15日)
 - 地区小中学校長協議会との連携活動
 - ・総会 (4月3日)
 - ・歓送迎会 (4月5日)
 - ・教育長との懇談会 (8月23日)
 - ・退職校長会との懇談会 (12月6日)
 - ・退職校長感謝会 (3月19日)
 - ・中堅教員等実務研修会 (5月～7月)
 - 小中学校音楽祭, 理科作品展, 文集あだち, 特別支援交流学习・児童作品展他

2 「安達は一つ」を実効あるものに

山積する現場の課題解決に向け、25名の会員が胸襟を開いて常に語り合い、情報を共有し続けていきたい。研修会時ばかりではなく、日常的に校長の在り方や関わり方について研修を深め、「安達は一つ」を実効あるものとしていきたいと考えている。

1 活動の基本

全国・東北・県小学校長会の動向を踏まえ、本会の目的に沿った質の高い活動が展開されるよう、適正な予算編成や円滑な執行にあたる。

2 会費の執行状況

- (1) 今年度会費(一人あたり) 69,100円
- (2) 今年度の各負担金
- | | |
|-------------|---------|
| ○ 県小学校長会費 | 30,000円 |
| ○ 研究大会基金 | 500円 |
| ○ 東北連小会費 | 2,000円 |
| ○ 東北連小準備金 | 300円 |
| ○ 全連小会費 | 6,500円 |
| ○ 日本教育会費 | 3,100円 |
| ○ 小中連協会費 | 11,000円 |
| ○ 大会参加旅費積立金 | 1,000円 |
- (3) 賛助会費(一人あたり)
- 退職校長会賛助会費 500円
- (4) 残りの会費
- ・事業費や運営費等に計画的に充てる。
- (5) 旅費について
- ・秋田大会参加費を本会費より支出する。
(8,000円×5名分)
 - ・校長会研修は全て県費旅費となる。

3 経理部組織

二本松方部 伊藤比呂美(塩沢小)
東達方部 渡邊 真魚(渋川小)
南達方部 草野 和代(岩根小)

【行財政部活動計画】

教育行政上の課題解決に向けて

行財政部長 佐藤 健夫
(本宮市立本宮小学校)

【研究部活動計画】

組織的な実践研究といわき大会
での成果発表

研究部長 遠藤 春光
(二本松市立石井小学校長)

1 活動方針

- (1) 教育行政上の課題解決のために、組織的継続的な対策活動を推進する。
- (2) 当面する課題や新たな視点から調査研究活動を行う。また、特別調査として今年度も大震災・原発事故の影響に係る調査を継続して行う。
- (3) 関係機関との連携を保ち、教育行政上の諸問題について情報を収集するとともに、広報部と連携を図りながら適時・適切な対応に努める。
- (4) 組織をあげて地域課題を解決するための活動を推進する。

2 活動内容

- (1) 多様な教育活動に対応するための教育諸条件の整備・充実
- (2) 教職員の待遇改善と福利厚生の上向
- (3) 当面する重要課題の調査研究とその課題解決

3 活動計画

- (1) 行財政部会
 - 組織・活動計画作成 (4月)
 - 調査Ⅰ・Ⅲ, 特別調査の実施 (5月)
 - 行財政上の課題把握 (6・7月)
 - 要望活動の推進 (8月～)
 - 活動の反省・総括 (1月)
 - 人事の反省 (3月)
- (2) 各種県行財政部会等への出席
 - 県行財政部合同部長会
 - 県行財政部代表部長会
 - 県行財政部幹事会及び合同幹事会

4 行財政部組織

二本松方部 佐藤 則之 (二本松南小)
東達方部 服部 英昭 (川崎小)
南達方部 佐藤 健夫 (本宮小)

1 活動方針

- (1) 子どもが「ふるさとに誇り」をもつとともに、たくましく未来を拓いていく子どもの育成に向けた校長としての取組が明らかになるように研究を進める。
- (2) 研究を校長自身の研鑽の場にとらえ、校長としての考えや取組が明示されるように研究を進める。校長会の組織的な研究として質の高い実践研究を進めていく。

2 活動内容

- (1) 6月27日(木)の第2回小学校長会研修会でのいわき大会リハーサルの実施
- (2) 7月22日(月), 23日(火)に開催される福島県小学校長会研究協議会いわき大会への参加と実践発表
- (3) 10月17日(木), 18日(金)に開催される全国連合小学校長会研究協議会秋田大会への参加(支部代表5名)

3 研究組織と研究の視点

方部	方部長	分科会【研究の視点】
二本松	佐藤 聡 (岳下小) [希望支会]	6 研究・研修【視点2】 将来への夢や希望, 参画意識をもたせる研修の推進と教職員の育成
東達	佐藤敏宏 (小浜小) [希望支会]	4 豊かな人間性【視点2】 帰属意識を高め, よりよい地域社会の構築に参画しようとする実践力の育成
南達	森藤雅之 (和田小) [発表支会]	2 評価・改善【視点1】 学校経営の組織的・継続的改善に向けた学校評価の充実

【生徒指導部活動計画】

生徒指導上の課題解決に向けて

生徒指導部長 小林 雄
(大玉村立玉井小学校長)

1 活動目標と方針

- (1) 県小学校長会生徒指導部活動方針・重点を踏まえ、本支会における生徒指導上の諸問題及び対応について情報交換を行い、学校経営に役立てる。
- (2) 生徒指導上の共通課題等について解決策を探る。
- (3) 幼稚園・子ども園・保育所や中学校及び関係機関との連携を図り、児童の健全育成に努める。

2 活動内容

- (1) 生徒指導上の当面する課題についての情報収集と提供を行う。
 - ① 「心のケア」を必要とする児童の実態調査
 - ② 「いじめ・不登校・虐待・暴力行為」に関する調査
 - ③ 「SNS・ネット利用の実態」に関する調査
- (2) 共通課題解決に向けての実践状況の情報交換、検討協議をする。
- (3) 各中学校区ごとに関係機関との連携を図り幼・小・中の一貫した生徒指導を行う。

3 活動計画

- (1) 生徒指導部会
 - 組織・活動計画作成 (4月)
 - 調査の実施 (5～7月)
 - 調査報告書の提供・情報交換 (8月)
 - 今年度の反省と次年度の取組 (2月)
- (2) 各種県生徒指導部会への出席

4 生徒指導部組織

二本松方部 大越吾都臣 (原瀬小)
東達方部 八巻 博之 (東和小)
南達方部 小林 雄 (玉井小)

【広報部活動計画】

学校経営に寄与する広報活動

広報部長 鈴木 茂
(本宮市立白岩小学校長)

1 活動目標

- (1) 会員の研鑽と交流、学校経営に寄与する広報活動を推進する。
- (2) 関係機関との連携を図り、情報交換や資料提供のための広報活動を推進する。

2 活動内容

- (1) 広報「安達太良」の発行(年3回)
- (2) 地区広報部会の開催と連携
- (3) 県広報幹事会との連携
- (4) 県会報、校長会のあゆみ、小学校時報への寄稿

3 活動方針

- (1) 広報「安達太良」の発行に重点を置き、全会員1回を原則として寄稿を依頼する。
- (2) 校長会組織や担当する領域・分野を生かして寄稿を依頼する。
- (3) 広報の発行は年3回とし、支会の特色を生かし親しみのもてる編集に心がける。
- (4) 県会報等の寄稿については、支会長の承諾を得て広報部で依頼する。
- (5) 会員への会報はメールで届ける。

4 活動日程

- (1) 広報部の活動計画 (支会校長会にて)
- (2) 広報部会 (必要に応じて開催)
- (3) 広報の発行予定

185号	7月1日
186号	12月1日
187号	3月1日
- (4) 県会報への寄稿
 - ・今年度は、249号県会報「支会だより」の原稿依頼

5 広報部組織

二本松方部 菅藤 文彦 (大平小)
東達方部 石澤 悟 (旭小)
南達方部 鈴木 茂 (白岩小)

【新 会 員】

みんなで一緒に

二本松市立安達太良小学校 織田島浩孝

磐梯朝日国立公園内に指定される安達太良山の中腹に位置し、春夏秋冬、豊かな自然に恵まれた地域にある安達太良小学校に赴任し、二カ月が過ぎました。この間、驚いたことが二つ。一つ目は、4月全校生42名全員が無欠席だったこと。もう一つは授業参観・PTA総会に全家庭出席だったこと。「みんな一緒」の教育活動が常に展開されている学校に感動しました。

給食もみんな一緒にランチルームでいただきます。春の温泉街鼓笛パレード、秋の安達太良登山、冬のスキー教室・・・すべて地域・保護者の協力のもと児童、教職員みんな一緒に取り組んでいます。



【温泉街鼓笛パレード】

AIの進歩、科学の発達によって一人でも生きていけるような錯覚をする時代に、本校のように大人も子どももみんな一緒に学ぶことは、これからの学校教育で一番大切なことです。たくさんの個性がぶつかったり、力を合わせたりしながら成長する姿が多く場面にあります。このような素晴らしい学校に自分が赴任したのには必ず意味があると考え「みんな一緒」に学ぶ一員として、愛と信頼と笑顔に溢れる学校を目指していきたいと思えます。

安達地区校長会の皆様、今後ともご指導よろしくお願い申し上げます。



【全校安達太良登山】

【新 会 員】

地域に誇りと愛情をもたせる学校に

二本松市立川崎小学校 服部 英昭

本校は、創立10周年を迎えた。平成22年度に、二本松市立上川崎小学校と下川崎小学校の統合により、川崎小学校として開校されたのである。

創立10周年を機に、復活した運動会の種目がある。「川崎甚句」盆踊りである。地域の方に伺うと、上川崎と下川崎の両地区で昔から踊られてきた踊りがあり、統合前はそれぞれ、地区の踊りを運動会の中で踊っていたという。同じ川崎甚句に合わせて踊るのだが、微妙に動き方の違いがあり、全く同じではない。川崎小の開校当時、その違いのために運動会種目に入れることは見送られ、その後10年が経過した。その踊りを先日の運動会で踊ったのである。運動会前には2日間わたくし「川崎甚句保存会」の皆様にご指導をいただきながら一歩ずつ前へ進むことができました。いつも温かく話を聞き、ご助言くださる諸先輩方の皆様に感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

また、地域の伝統文化財として教育課程に取り入れたいと考えているのが「和紙」である。本地区の紙漉きは平安時代中期から始められたと伝えられており、紫式部や清少納言が使用した「まゆみがみ」は上川崎和紙とも言われている。本年度は、5学年の総合的な学習の時間に、この地域教材を活用した単元を設定しているが、今後は他学年においても、教科横断的な視点で配列・活用していきたいと考えている。

◆ この3か月を振り返ると、日々、新たな課題に直面し、判断に迷うことばかりでしたが、安達支会の皆様にご指導をいただきながら一歩ずつ前へ進むことができました。いつも温かく話を聞き、ご助言くださる諸先輩方の皆様に感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



【新 会 員】

夢に向かってがんばる子

大玉村立大山小学校 舘脇 一弘

「目標がその日その日を支配する」

私はこれまでの教員人生の中で時折子どもたちに話してきました。それは、子どもたちに自分の夢に向かって一日一日を大切にしてほしいという願いからです。本校の教育目標は大玉村の教育方針のもと、「めざせ！夢に向かってがんばる子」です。この素敵な教育目標実現の為に、保護者の皆様、地域の皆様と連携・協働し、みんなで支え・育て、みんなが育つ学校づくりに邁進しています。

大山小学校は創立146周年を迎える伝統ある学校です。コミュニティ・スクールとして学校運営協議会を核に、地域の方々の意見を学校運営に反映させることで、子どもたちの成長を支え、地域とともにある学校づくりを進めています。歴代の校長先生方は、地域の皆様の交流と学びの共同体を作ろうというお考えをもち、そのシンボルとして校庭を芝生にしたとのこと。保護者の方、地域の皆さんからも「自然と学校に足を運び、活動し、学ぶ」そんな大山小学校にしたいという夢を伺いました。実際に休みの日には、保護者の方が子どもたちと遊ぶ姿、地域の方が散歩をする姿、中学生の兄弟とキャッチボールをする姿が見られます。そして、休み時間には子どもたちが元気に校庭に飛び出し、鬼ごっこをしたり、転がったりして遊ぶ姿は何度見ても癒やされます。

これからも、友達とともに、先生とともに、そして地域とともに夢に向かってがんばる子どもたちを育てて参ります。



【令和元年度運動会】

【新 会 員】

「あ」「た」「ま」を大切に

本宮市立和田小学校 森藤 雅之

4月、自然豊かで歴史と伝統ある和田小学校に着任しました。遠くの山々からウグイスの鳴き声が届き、心がほっと和んだことを覚えています。

これまでに感動したことが三つあります。一つめは、始業式で校歌を歌う子どもたちの姿です。「本当に純朴な子どもたちだなあ」と思いました。二つめは、PTA全体会に参加いただいた保護者の数です。二人で出席された家庭も多かったです。三つめは、運動会に向けての地域の方々の献身的な協力です。地域の方々とともに創りあげる教育を目の当たりにした思いでした。このように恵まれた環境の学校に勤務できることに感謝しながら「自分にできることは一体何だろうか」を問い、目標をもつことができました。

それは78名の児童の健やかな成長を図るには私を含めた教職員18名も、子どもたちとともに日々成長していくことが大切ではないだろうかということです。

そこで「明るく」「楽しく」「前向きに」を合い言葉に職務にあたり「児童とともに日々成長していきましょう」と確認しました。頭文字をとって『あ』『た』『ま』を大切にしましょう！です。子どもたちのために、私自身も少しずつ成長していきたいと考えています。



結びに、いつも温かなお声をかけていただいております安達地区の校長会の諸先輩の皆様ならびに関係機関の皆様に、心より感謝申し上げます。

今後ともどうぞよろしく願いいたします。